

パネルディスカッション

不確実性が高まるニューノーマルでの企業変革と
アナリストの役割
—気候変動や新型コロナウイルスなどのリスク対応と
持続的成長の両立のために—

〈パネリスト（五十音順）〉

井 口 讓 二 CMA

（ ニッセイアセットマネジメント株式会社
チーフ・コーポレート・ガバナンス・
オフィサー 統括部長 ）

木 南 陽 介

（ 株式会社レノバ 代表取締役社長CEO ）

達 脇 恵 子

（ デロイト トーマツ サステナビリティ株式会社
代表取締役社長
有限責任監査法人トーマツ パートナー
デロイト サステナビリティ 日本統括責任者 ）

■司会者

松 島 憲 之 CMA

（ 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社
コンサルティング業務企画部チーフアドバイザー ）

目

1. 気候変動への企業の取り組みと評価
2. 新型コロナウイルスがもたらす構造変化と企業変革

次

3. 不確実性が高まる中での企業評価や投資手法の変化
4. 進化するESG投資とアナリストの役割

1. 気候変動への企業の取り組みと評価

松島 今回のテーマは、「自然の脅威に立ち向かう企業とアナリストの役割」である。新型コロナウイルスの影響を受けて、社会構造や人の行動様式などが大きく変化している。政治面では、米中対立が激化している。気候変動の影響は、中長期的に経済や社会の不確実性をさらに高めていくことになるだろう。企業は持続的成長のためには、どのようにリスクに対応し、自らを変えていかな

ければならないのだろうか。すでに投資の世界では、リスクとリターンの効率性を追求するだけでなく、社会貢献などを考慮したインパクト投資やESG投資が増えてきている。このように社会が大きく変化する中であって、アナリスト（CMA）に対する期待は高まるばかりである。本日は、アナリストの役割についても議論したい。まずは、気候変動への対応で模範となるような企業の取り組み事例とそれに対する投資家の評価について、皆さんに伺いたい。